

宮崎県沿岸（主に県北部）の魚類多様性の把握とその普及活動

農学工学総合研究科：緒方悠輝也

宮崎県の沿岸には1000を超える魚がいる！2016年4月に魚の分類や生態を学ぶため、延岡にある水産実験所の研究室に配属されてからずっと、どれだけの種類の魚がこの日向灘にいるのか確かめるため、日々魚を追い求めてきました。私は生まれてからずっと宮崎県で過ごしてきて、しかも実家の前を流れる大淀川で遊んできたので、それなりに魚や自然のことを見てきたつもりでした。しかし、研究室に入って自分で採集したり、漁師や釣り人の方と協力したりするうちに、まだまだ自分の知らない魚がいるんだなと実感しました。しかもそれは、日本で確認されていない種類や、世界でも例がないような種類も含まれます。私はこの宮崎の水辺の魚や生き物に出会えたときの喜びを、多くの方に共有するため、門川町をはじめとした県北部の海を舞台に、魚かるたやガイドブック、絵本を作成しました。その際の活動力の源は、子どもが海や自然を楽しめる場所にしたいという想いです。県北部にいと、休日に少年たちが数人で

釣り竿を背負って海に遊びに行く姿をよく見かけます。環境悪化や外に出る機会が減ってきている現代でも、このように子どもが楽しむポテンシャルを残している県北の海の良さをもっともっと引き出したいと思っています。最近では多くの反響があり、門川町のふるさと納税の返礼品になったものもあります。今後も県内外の多くの方々向日向灘に興味を持ってくれるようになることを目標に、いろんな方と協力して活動を続けていきたいです。最後に、これまでご協力いただいた多くの方に感謝申し上げます。



都農町の農畜産業や地域への貢献と学生の学びのデュアルパーパスモデル —ツノタイムズによる領域横断型プロジェクト—

農学研究科：内山智浩*、外山大夢

*が受賞者

この度は光栄な賞をいただき本当に嬉しく思っております。2020年度最優秀賞は多くの方にご協力していただいたことの成果です。この活動を始めるきっかけは、大学の講義の一環で都農町の農家訪問を行ったことでした。訪問した農家さんから「農業が抱える問題や魅力をもっと若者の力で発信してほしい」と切実に言われました。その時に私たちは、農業の担い手不足や農業従事者の高齢化といった直接的な問題を解決する取り組みを行うだけではなく、多くの人にその現状や農業の魅力も伝えていかなければならないと思いました。そこで本活動では都農町の農畜産業の今を発信するプロジェクトとして学生発のローカルメディア「ツノタイムズ」を立ち上げました。学生主体で都農町の農業問題の解決を目指し、農業の魅力を引き出していくことを活動のミッションとして掲げました。多くの学生メンバーと協力し学び合い、時には農学部や地域資源創成学部の教職員の方々のご助言をいただきながら、学部の垣根を越えた領

域横断的に活動を進めてきました。これからもこの活動を軸にして都農町で地域貢献できるよう私自身も精進していきたいと思えます。



グランメール宮崎～科学で宮崎の鰹を発信～



農学研究科：久保田響

私は大学生生活約6年間で宮崎を遊びまわった。宮崎は山や海の自然に恵まれ、食もうまい。この経験をとおして、数えきれない程の宮崎の良さを知った。

だがしかし、宮崎県の人からは宮崎県にはイオンやチキン南蛮しかなく、遊ぶところや名物が少ないという声をよく聞く。しかしそうは思わない。私はまだ皆に知られてない宮崎を探し、発信するため、「とっても元気！宮大チャレンジプログラム」に応募した。

「グランメール宮崎～科学で宮崎の鰹を発信～」は、知られざる海の幸である宮崎県産鰹で宮崎の食を盛り上げるため発足した。

宮崎には目井津の美々鰹、北浦特産の北浦灘あじ、都農町産の都農アジの3つの地域名を冠する鰹が在る。これを宮崎県産鰹の特色と考え、機能性の地域差の調査や加工品試作を行い、SNSやタウン誌への掲載を通じて、宮崎県産鰹の知名度向上に取り組んだ。これらの成果により、宮崎大学学生農学特別賞を受賞することができ、ちょっとは宮崎の鰹を知ってもらえたと思う。



私は卒業までの1ヶ月ちょっとでまだ知らない宮崎を探す。

宮崎の若者は新しいエンタメや食べ物を求め、宮崎には何にもないというが、視点を変えれば、知らない宮崎や面白い宮崎がたくさん見つかる。

せっかく宮崎県に来たなら身近な自分だけの宮崎を探せ！またそれを教えてくれー！

夢と希望を永遠に

農学部植物生産環境科学科：立松良隆

みなさんの子どもの時、家族や友人の中で一年間の思い出の中に「クリスマス」があると思います。ケーキを食べたり、起きたらプレゼントが置いてあったりとクリスマスは家族と、友人と楽しい思い出があった方も多いのではないのでしょうか。しかし、プレゼントがもらえない、もしくはひとりで過ごすしかなくてサンタさんが来ないと思いが作れない子どもたちが結構いるのも現状です。そんな子どもたちにサンタさんに扮しプレゼントを渡し、「サンタさんは来てくれる」という夢と希望を届ける目的で2008年にNPO法人チャリティーサンタが発足しました。その活動に感銘を受けた男性が2018年に宮崎に支部を作り、今年で5年目になります。今ではメンバーは約80名になり、宮崎支部の代表、副代表が宮崎のラジオに出演するなど知名度も少しずつ上がってきました。昨年の12月も60件以上のご家庭に夢と希望を届けることができました。クリスマス以外にも宮崎の幼稚園、保育園のクリスマスパーティーにサンタさんに扮して登場し、プレゼントを渡し、子どもたちに夢と希望を届けています。今年度は13の幼稚園、保育園に訪問できました。これ



でもまだまだ届けられていない子どもたちはたくさんいます。来年度は今年度よりもすこしでも多く届けられたらいいと思っています。そしてこの活動が途切れることなく続き、いつかすべての子どもたちに夢と希望がいきわたるようになってほしいと思います。これからも応援よろしくお願ひします。

JA宮崎経済連×生協×宮大生による地元食材を使ったパンの共同開発

農学部植物生産環境科学科・畜産草地科学科、地域資源創成学部：

津下美里*、貴島佑香*、田中絢子、宇良田虹七、林田華奈、岩根穂乃花、岡田玲杏、柿田英希 *が受賞者

三色パンを作成するにあたって一番私たちが目標としていたのは、宮崎のことを宮崎大学の学生にまずは知ってもらうことでした。この目標を達成するために私達はJA宮崎経済連様や宮崎大学生協様に協力を依頼し、宮崎県産の特産品を使用したパンの開発・販売を行いました。

ここで「三色パンってなに？」と感じる方が多いと思います。裏話をすると最初は販売時期(1月)の関係で紅白にちなんだ二色パンにする予定でしたが、どうしても宮崎県の特産品で「ほうれん草は欠かせない！」ということで紅白に緑を加えた三色パンが誕生しました笑(秘)

三色パンの開発は二人一組で1色ずつ担当し、各々がまるでわが子を育てるように愛を降り注ぎながら開発を進めました。

三色パンの中で一番の問題児だったのがほうれん草マフィンで、マフィン生地に練り込むほうれん草の粗さや量、見た目や味を注意しつつ何度も試作を繰り返してやっと満足できる物ができました。

このように丹精を込めて開発したパンを販売するのに、私たちはオリジナルのキャラクター作成、ポップ、チラシ作成などを行いました。また、販売期間中には、MRTさんに取材もしていただき、コロナ禍でしたが、毎度完売させて頂きました！

チームJAはこれからも活動の幅を広げ、私たちの代だけでは終わらずに後輩へとこの活動を受け継ぎ、これからも末永く地元宮崎に貢献していきたいと思っています！

「三色パンまだ、食べてなかった！知らなかった」というそのあなた！再販情報は以下のQRコードをチェック！

また、少しでもこの活動に興味を持ったり参加したいと思ってくれたそのあなたも以下のQRコードをチェックして、気軽にDM下さい！待ってます！

